

博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名(生年月日)	黒石 伸江 (****年**月**日)
本籍	*****
学位(専攻分野)	博士(リハビリテーション学)
学位授与番号	甲第167号
学位授与日付	令和3年3月20日
学位授与の要件	学位規程第3条第3項該当
論文題目	手指・手部切断に対する早期義肢装着法—3D技術を使用した訓練用仮義手の作製—
審査委員	教授 妹尾 勝利 教授 田中 順子 教授 井上 桂子

博士論文内容の要旨

手指・手部切断者は義手装着の経験がないまま本義手を作製することになり、より最適な義手を選択できない状況にある。本論文では、岡山県の現状の調査から手指・手部切断に対する早期義肢装着法の実態の顕在化、手指・手部切断における早期義肢装着法の必要性の検討、様々な切断部位での訓練用仮義手の役割の検証、作業療法士誰もが実践可能な訓練用仮義手の簡便な作製方法の考案、その有効性や作製方法の検証、簡便な作製方法のマニュアル化を目的とした。結果は、手指・手部切断に訓練用仮義手を作製した事例は少なかった。しかし、症例検討から、訓練用仮義手を含む早期義肢装着法の実施は、上肢機能を改善させるだけでなく装飾用義手の機能性や活用性を治療時期から引き出せ、切断者自身が本義手の役割を構築することに役立つと示唆された。手指・手部切断に対する訓練用仮義手の作製が一般的ではない現状に対し、3D技術を使用して作業療法士誰もが実践可能な簡便な訓練用仮義手の作製方法を考案した。さらに、5症例に作製した結果、実践が可能と考えられ、作製方法をマニュアル化した。

博士論文審査結果の要旨

本研究は、手指・手部切断患者に対する訓練用仮義手を含む早期義肢装着法の実施、さらに3D技術を使用した作業療法士誰もが実践可能な簡便な訓練用仮義手の作製方法を考案するという新しい取り組みを行った意欲的で独創的な研究である。手指・手部切断患者に対し、早期から訓練用仮義手を用いて練習・生活することで機能・能力を改善させ、さらによりよい本義手を選択できるようになることを目的とし、熱意を持って義手を開発した。実際の患者を対象にした研究を積み重ね、新しい知見を得ることができている。論文は分かりやすく論述されていた。本研究は、今後の臨床現場や教育場面での貢献が期待され、リハビリテーション学の博士論文として十分価値あるものに仕上がっていると判断された。論文内容は、すでに学術雑誌4編に掲載・受理されており、質は保障されている。審査の結果、本論文は博士論文に十分に値し、合格と判定した。